

誰もが大切にされる心豊かなまちづくりのためのアンケート調査

— 田尻町人権に関する意識調査 —

結果報告書 概要版



2022(令和4)年3月

田尻町

調査の概要

■調査の目的

「田尻町人権行政推進基本方針・基本計画」を策定するにあたり、人権問題に関する町民の意識や実態を把握し、今後の目標や施策を策定するための基礎資料とすることを目的として、町民意識調査を実施しました。また、併せて町職員を対象に調査を実施しました。

※この概要版には、町民意識調査の結果のみ掲載しています。

■町民意識調査の概要

- 調査対象 18歳以上の町民（令和3年10月1日現在）1,500人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送による調査票の配布、郵送による回収及びインターネット回答
- 調査期間 令和3年11月16日～12月7日

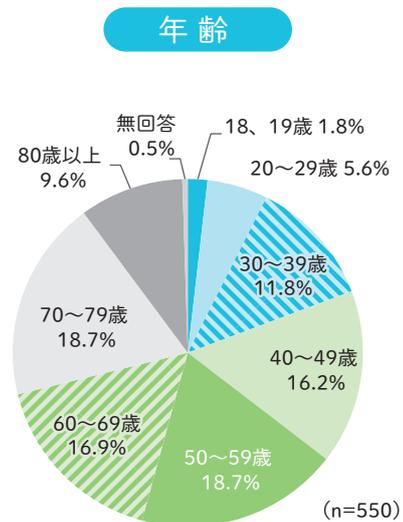
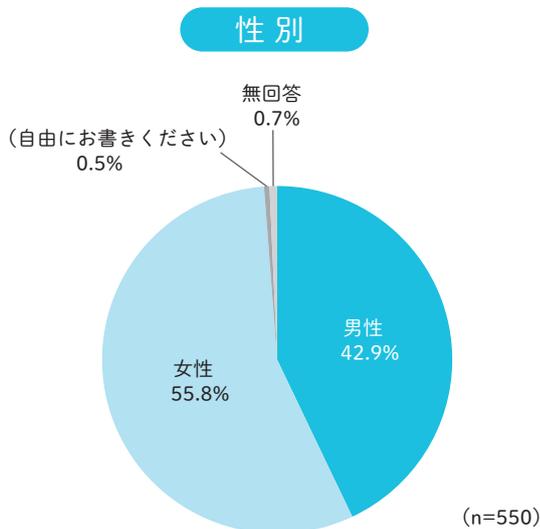
※図中の「n」は、集計対象者の人数をさします。「％」は、四捨五入の関係で合計が100%にならないことがあります。複数回答の設問では合計が100%を超えます。

※選択肢のうち「その他」「わからない」「無回答」を省略している場合があります。

■回収結果

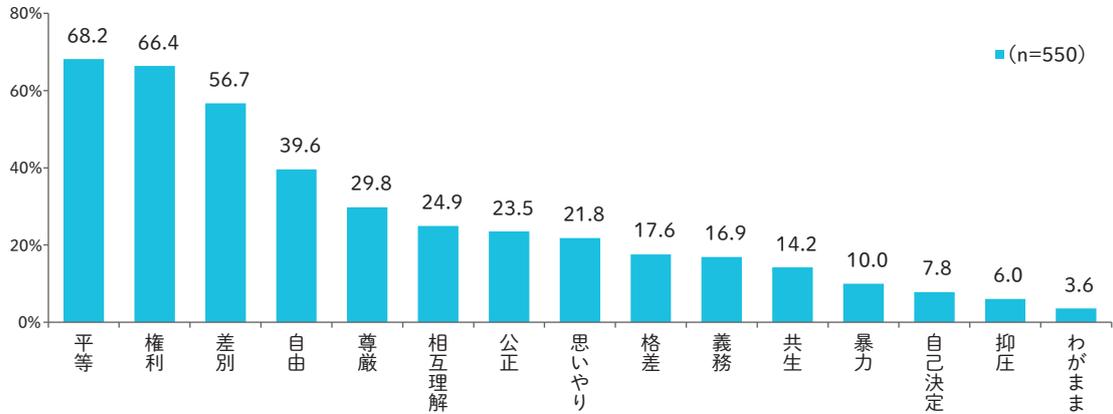
	標本数	回収数（率）	無効数	有効回収数（率）
町民意識調査	1,500 件	551 件（36.7%）	1 件	550 件（36.7%）

■回答者の属性



1 「人権」と聞いて思いうかべる言葉

「人権」と聞いたときに思いうかべる言葉は、「平等」(68.2%)と「権利」(66.4%)をあげる人が多くなっています。次いで、「差別」(56.7%)、「自由」(39.6%)の順となっています。

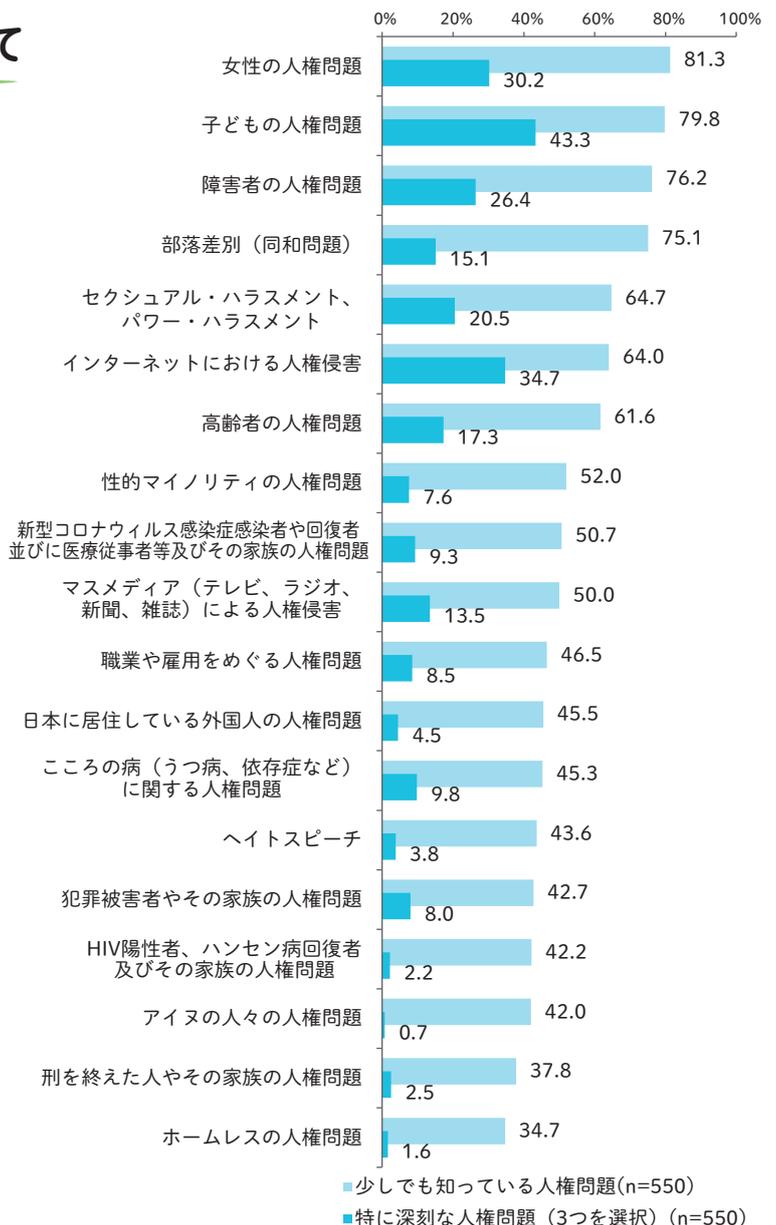


2 様々な人権問題について

①知っている人権問題と特に深刻だと思ふ問題

様々な人権問題のなかで少しでも知っている人権問題について「女性の人権問題」と「子どもの人権問題」を約 8 割の人が、「障害者の人権問題」と「部落差別(同和問題)」を 7 割以上の方があげています。

特に深刻な人権問題を 3 つまであげてもらったところ、「子どもの人権問題」「インターネットにおける人権侵害」「女性の人権問題」をあげた人が 3 割を超えています。

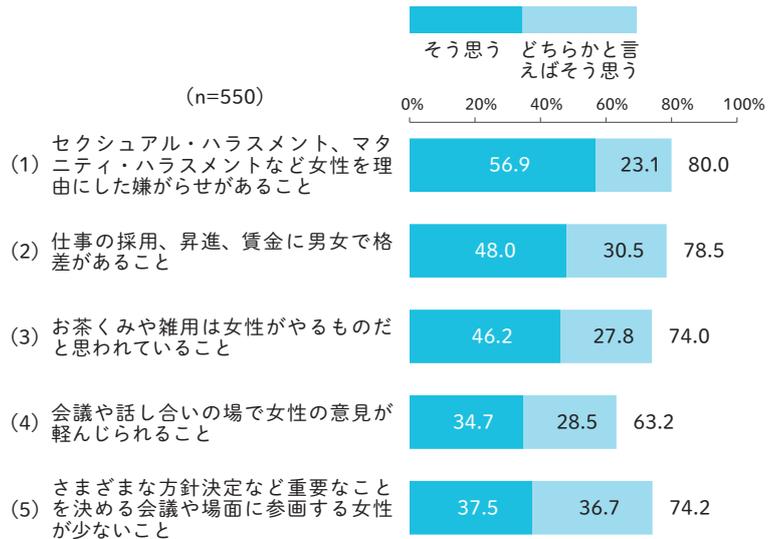


②主な人権問題に関する意識

主な人権問題について、具体的な例をあげ、人権上問題があることに対する意識をたずねました。

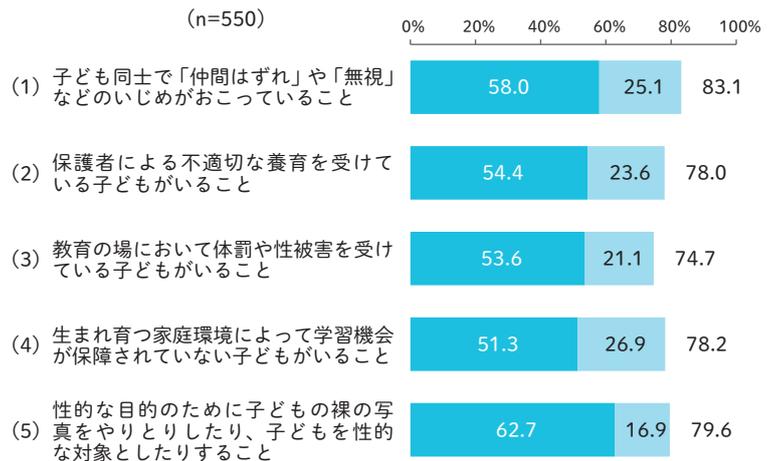
女性の人権

人権上問題があると認識する人は、「(1) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること」「(2) 仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること」が約 8 割なのに対して、「(4) 会議や話し合いの場で女性の意見が軽んじられること」ではやや少なくなっています。



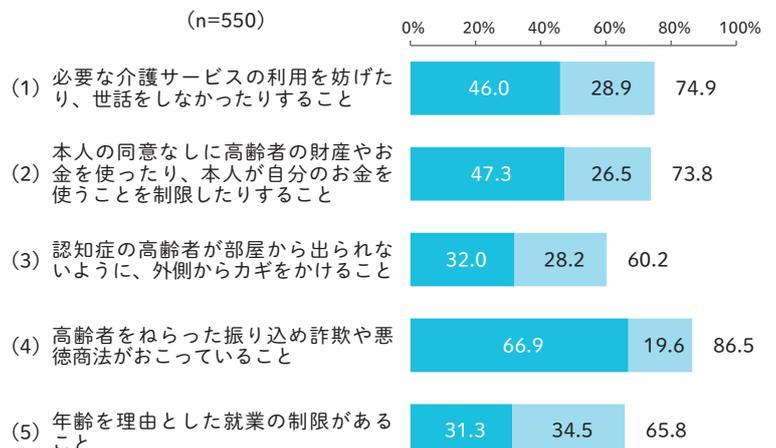
子どもの人権

総じて人権上問題があると認識する人が多く、特に「(1) 子ども同士で「仲間はずれ」や「無視」などのいじめがおこっていること」が多くなっています。「教育の場において体罰や性被害を受けている子どもがいること」ではやや少なくなっています。



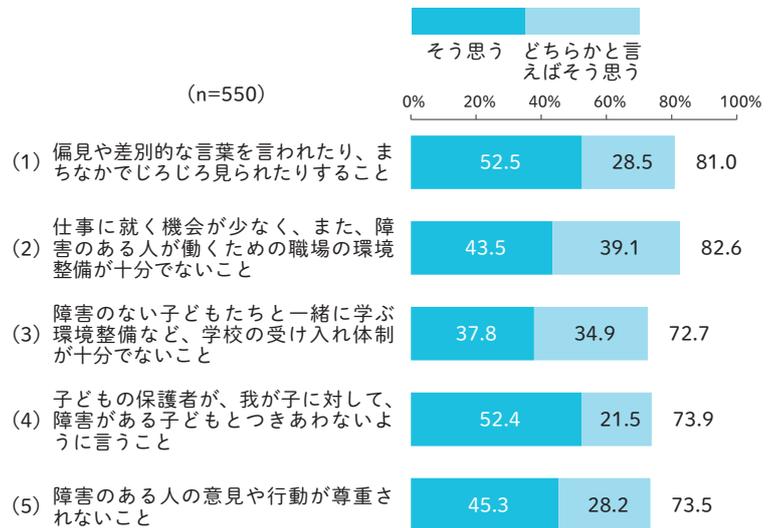
高齢者の人権

「(4) 高齢者をねらった振り込め詐欺や悪徳商法がおこっていること」に対しては 8 割を超える人が人権上問題があると認識していますが、「(3) 認知症の高齢者が部屋から出られないように、外側からカギをかけること」では約 6 割にとどまっています。



障害者の人権

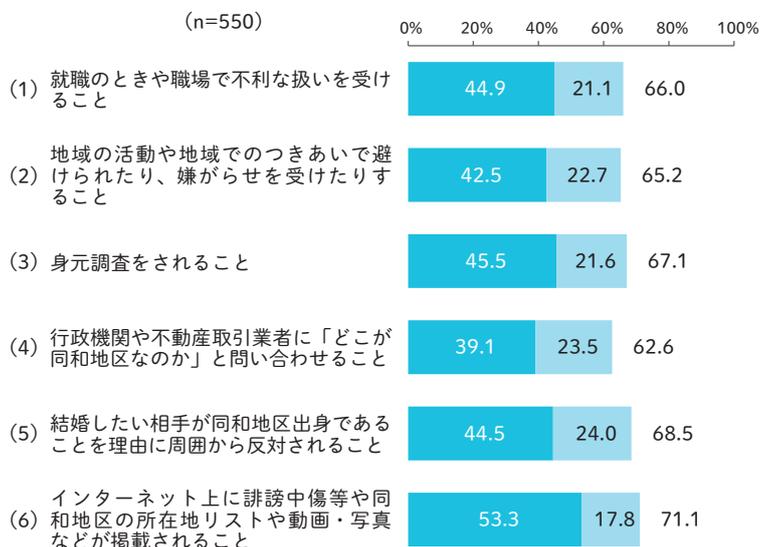
「(2) 仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと」「(1) 偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろじろ見られたりすること」では、人権上問題があると認識する人が8割を超えています。この2項目に比べて他の3項目の認識はやや低くなっています。



部落差別（同和問題）

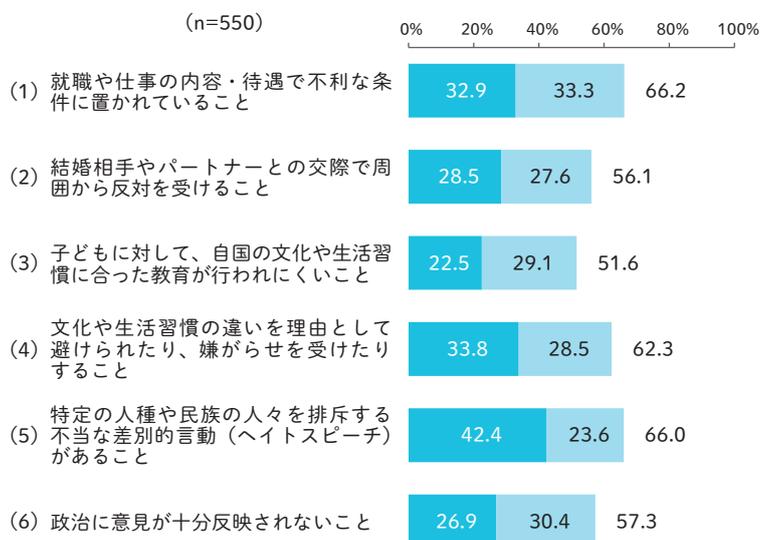
「(6) インターネット上に誹謗中傷等や同和地区の所在地リストや動画・写真などが掲載されること」「(5) 結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること」の2項目は、7割前後の人が人権上問題があるという認識です。

女性、子ども、高齢者、障害者の人権に比べると総じて認識が低い傾向がみられます。



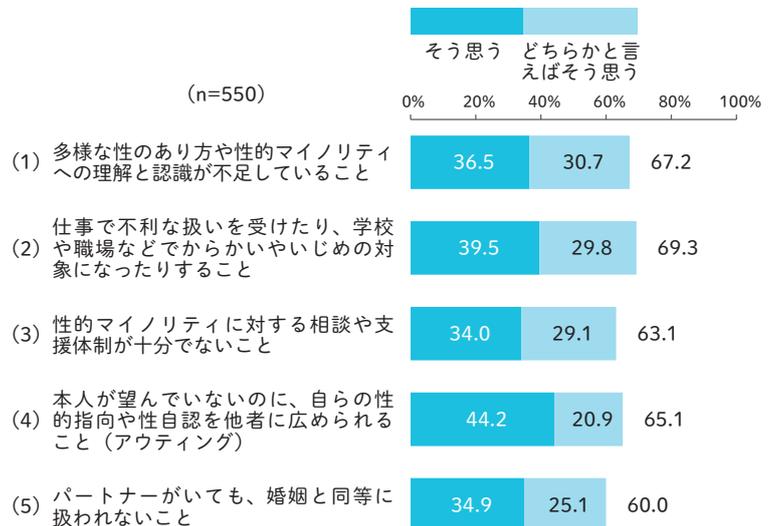
外国人の人権

「(1) 就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること」「(5) 特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）があること」など、人権上問題があるという認識をもつ人が最も多い項目で6割台半ばとなっており、他の人権問題に比べると総じて認識が低い傾向がみられます。



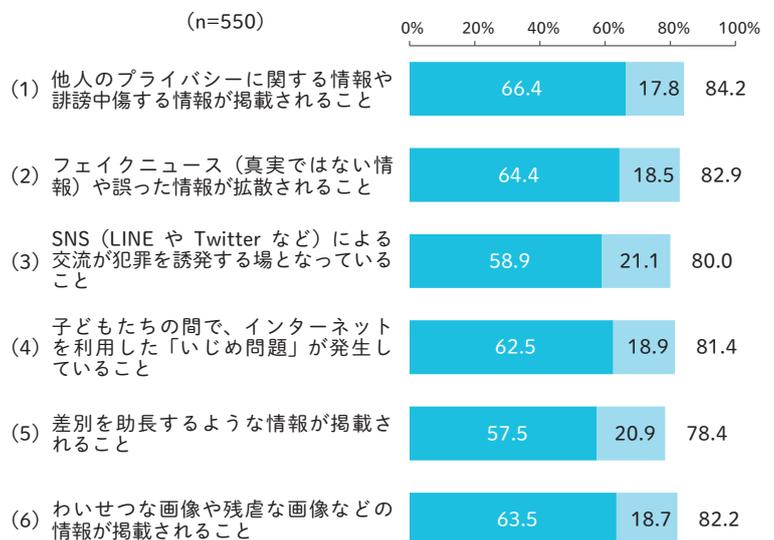
性的マイノリティの人権

人権上問題があるという認識をもつ人が最も多い項目は、「(2) 仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などからかきいじめの対象になったりすること」(69.3%)で、7割を超える項目はありません。外国人の人権に次いで認識が低い傾向がみられます。



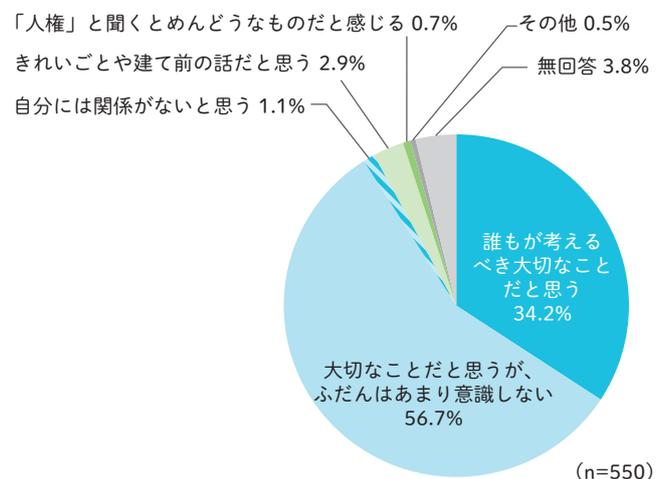
インターネットにおける人権侵害

プライバシーの暴露や誹謗中傷、フェイクニュース(真実ではない情報)の拡散など、すべての項目に対して、人権上問題があるという認識をもつ人は8割前後と多く、インターネット上で様々な人権侵害が起こっているという認識は高くなっています。



3 「人権」についてのふだんの意識

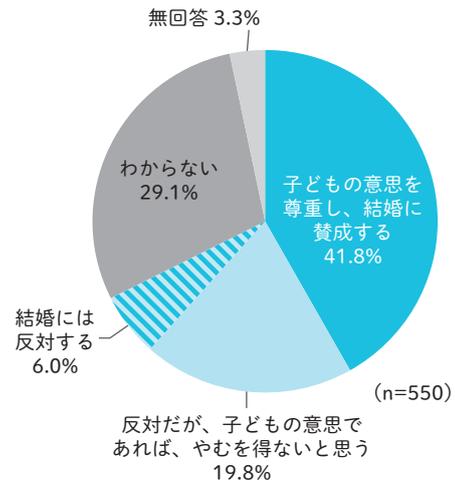
「人権」についてのふだんのように意識しているかについては、「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」(56.7%)が半数を超えており、次いで「誰もが考えるべき大切なことだと思う」(34.2%)が多くなっています。



4 被差別部落（同和地区）出身者との結婚

もしも自分の子どもが結婚しようとする相手が、被差別部落（同和地区）出身者であるとわかったときの対応については、「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」が約4割で最も多いですが、「反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う」という人が約2割となっています。「結婚には反対する」と回答した人と合わせると4人に1人は反対の意識をもっています。

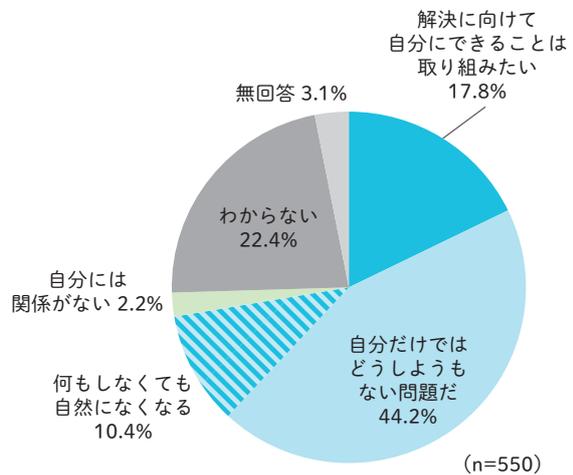
また、「わからない」と態度を決めかねる人が約3割と多くみられます。



5 部落差別（同和問題）の解決について

部落差別（同和問題）の解決については、「解決に向けて自分にできることは取り組みたい」と前向きな姿勢の人は2割に満たず、「自分だけではどうしようもない問題だ」（44.2%）と「何もしなくても自然になくなる」（10.4%）を合わせると半数を超えています。

また、「わからない」という回答も2割を超えています。



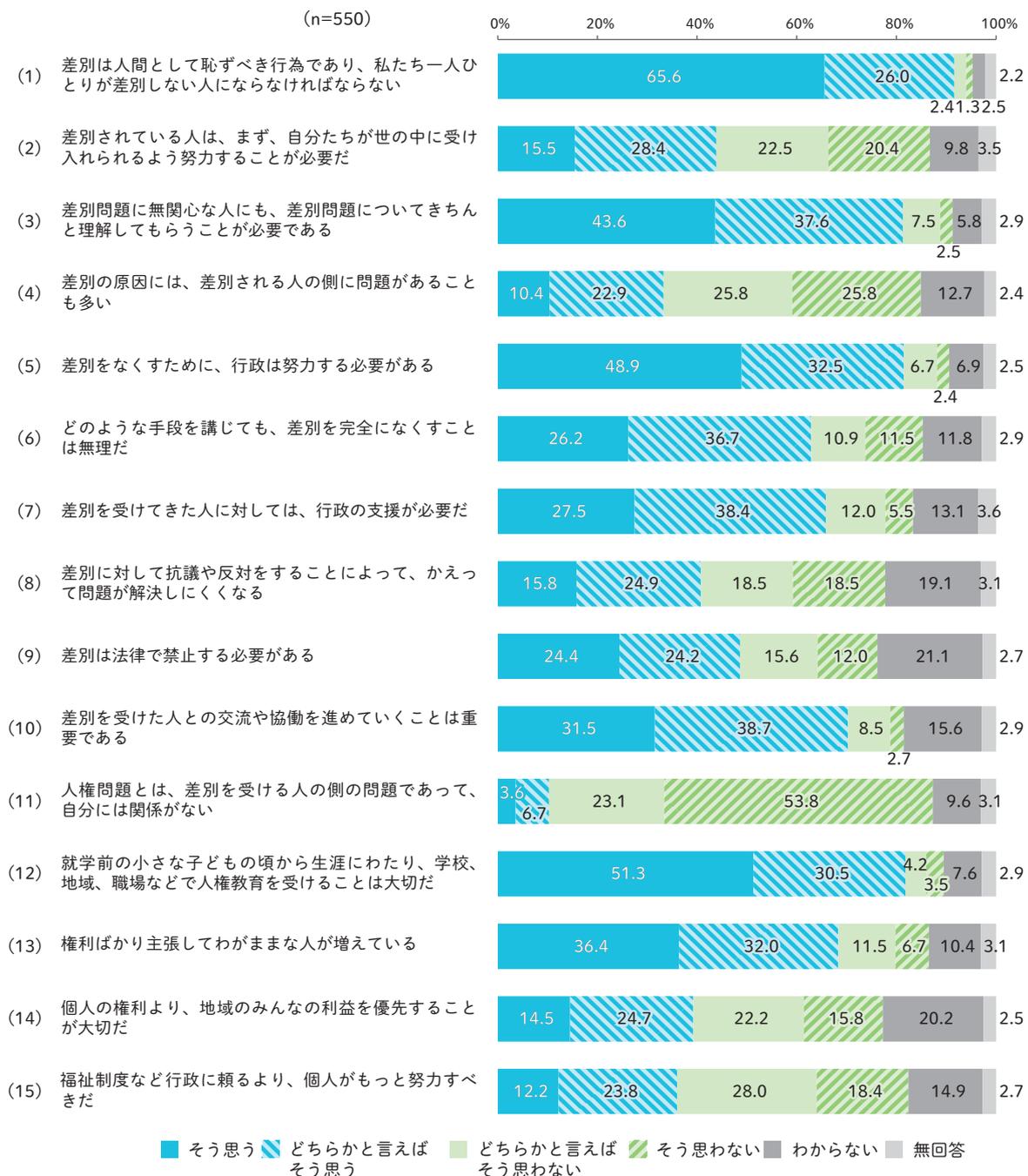
6 人権や差別をめぐる考え方

人権や差別をめぐるいろいろな考え方についてたずねてみました。

「(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」(91.6%)、「(12) 就学前の小さな子どもの頃から生涯にわたり、学校、地域、職場などで人権教育を受けることは大切だ」(81.8%)、「(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある」(81.4%)、「(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」(81.2%) などに対しては、人権問題の解決に対して前向きな考え方が多くを占めています。

その一方で、「(13) 権利ばかり主張してわがままな人が増えている」(68.4%)、「(6) どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ」(62.9%) など、人権問題に対して消極的な態度もうかがえます。

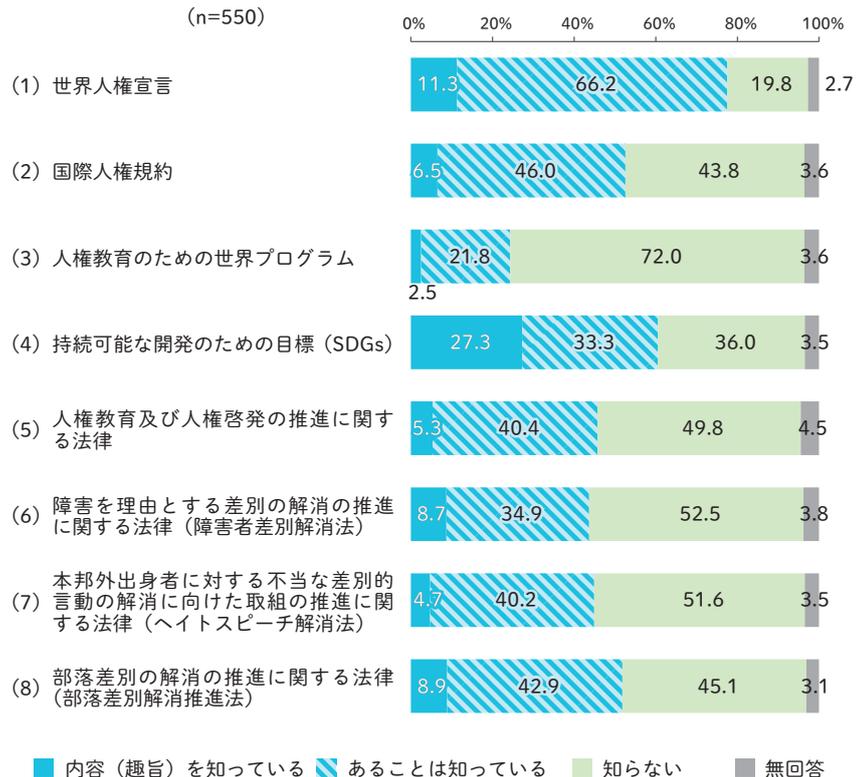
※数字は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計。



7 法律や条例の認知状況

法律や条例の認知状況では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」の合計が最も多いのは「(1) 世界人権宣言」(77.5%)で、次いで「(4) 持続可能な開発のための目標 (SDGs)」(60.6%)、「(2) 国際人権規約」(52.5%)と続いています。ただし、「内容（趣旨）を知っている」人が最も多いのはSDGsです。

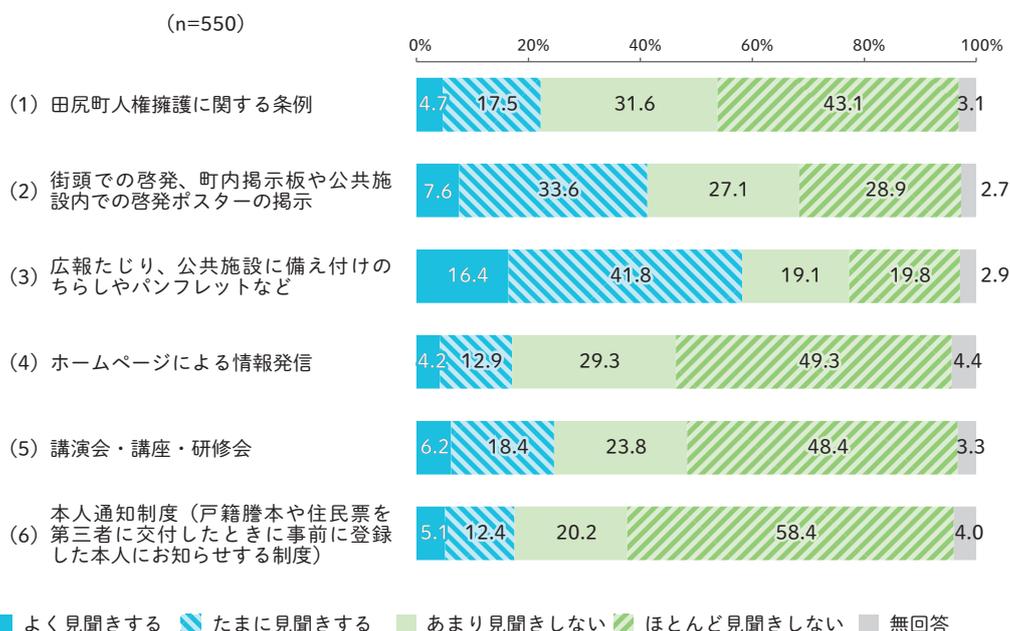
「(6) 障害者差別解消法」「(7) ヘイトスピーチ解消法」「(8) 部落差別解消推進法」は、いずれも2016(平成28)年に施行された法律ですが、「知らない」の回答が約半数を占めています。



8 田尻町の取り組みの認知状況

田尻町では、人権問題の解決に向けた様々な取り組みを行っています。それらのうち最も多く見聞きされているのは「(3) 広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど」(58.2%)です。次いで「(2) 街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示」(41.2%)となっています。

※数字は「よく見聞きする」と「たまに見聞きする」の合計。



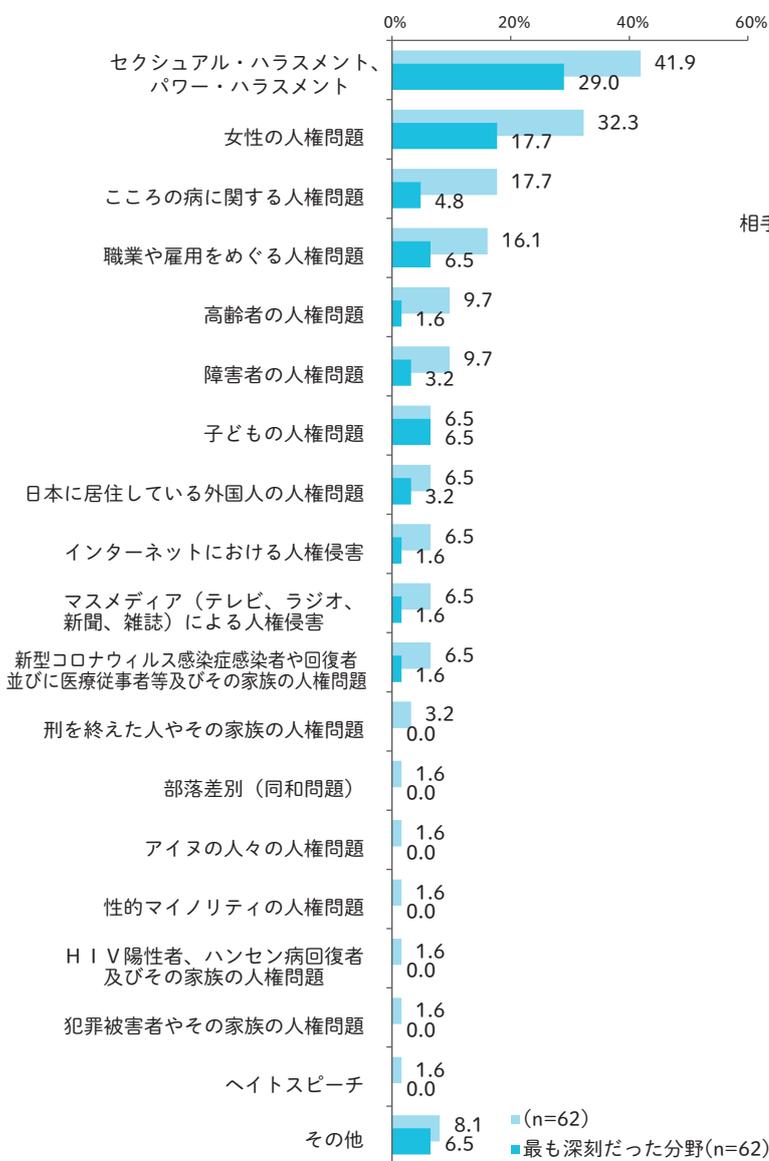
9 人権侵害事象を受けた経験について

回答者のうち約 1 割が人権侵害事象を受けた経験があると回答しており、受けた分野では、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」(41.9%) が最も多く、次いで「女性の人権問題」(32.3%) となっています。他にも様々な分野の人権侵害事象の経験があげられています。

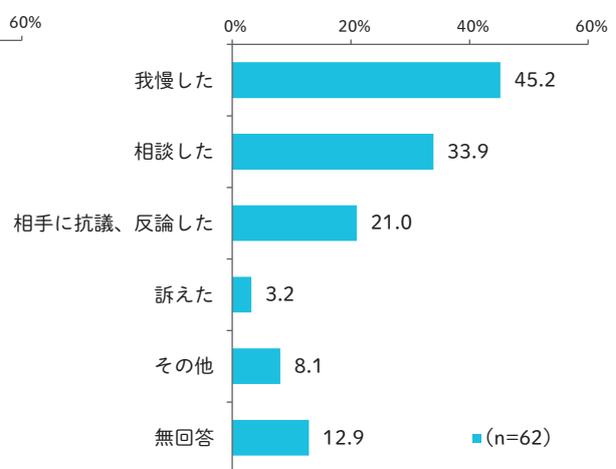
また、受けた人権侵害事象のなかで最も深刻であった分野についても、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」と「女性の人権問題」が多くなっています。

こうした人権侵害事象を受けた際の対応で、最も多いのは「我慢した」(45.2%) です。「相談した」(33.9%) よりも我慢した人の方が多くなっています。「相手に抗議、反論した」のは約 2 割です。

受けた人権侵害事象の分野

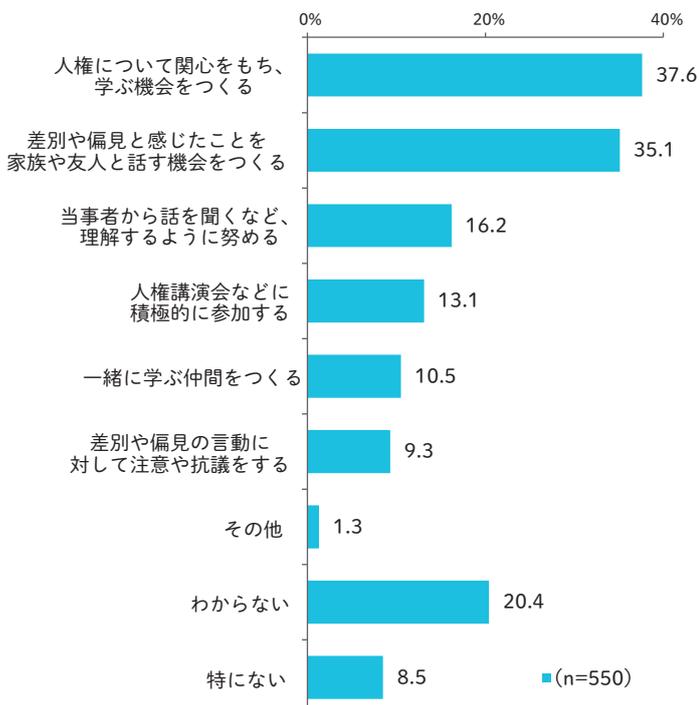
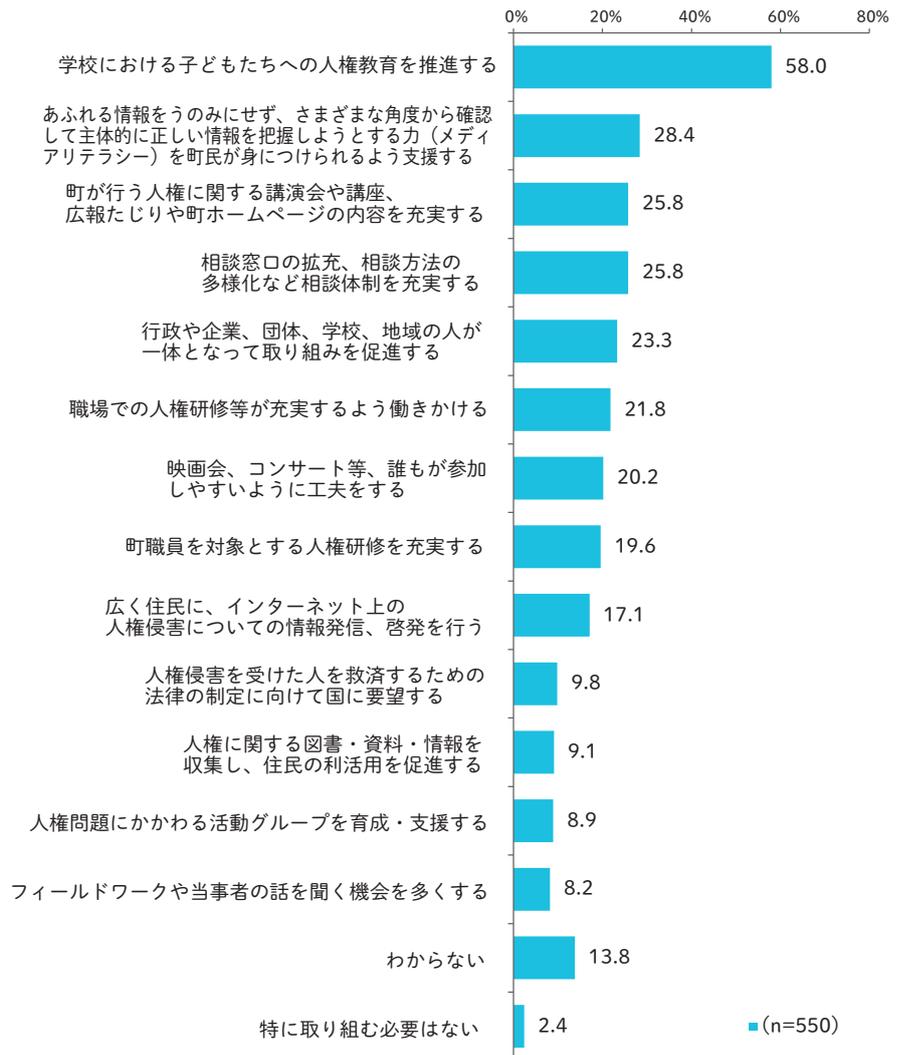


人権侵害事象を受けた際の対応



10 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと

人権問題解決のために田尻町が取り組むべきことでは、「学校における子どもたちへの人権教育を推進する」(58.0%)が突出して多くなっていますが、メディアリテラシーの支援や情報発信・啓発活動、相談体制などの取り組みに対しても一定割合の人があげています。



11 人権問題解決のために自身ができること

人権問題解決のために自身ができることについては、「人権について関心を持ち、学ぶ機会をつくる」(37.6%)と「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」(35.1%)の2項目が多くあげられています。

一方、「わからない」が約2割、「特になし」が1割弱となっています。

人権トピックス

メディアと人権

インターネット上で起こっている誹謗中傷やプライバシーの暴露、SNSでの仲間外しなどは、重大な人権侵害ですが、そうした明らかなものだけでなく、テレビ、新聞、雑誌、広告などあらゆるメディアから発信される情報は、無意識のうちに人権侵害や差別につながる場合があります。

情報は発信者によって編集されたものであり、ありのままの事実であるとは限りません。何らかの価値観や場合によっては偏見にもとづいて構成されていることもあるので、何が事実で、どこが誇張されているのか、その情報の背景などにも思いを巡らせてみる姿勢が大切です。

様々なハラスメント

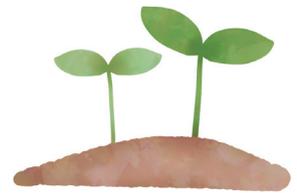
他人に対して意図的に、あるいは意図せず不快感を与えたり、困らせたりする嫌がらせは、人権侵害にあたります。職場の「いじめ・嫌がらせ」の相談件数が急増していることを背景に、事業主に対してハラスメント防止対策を義務づける法改正が行われるなど社会的にも大きな問題となっています。

性的な言動で相手を不快にさせる「セクシュアル・ハラスメント」のほかに、地位や立場の優位性を利用して相手に精神的・身体的苦痛を与える「パワー・ハラスメント」、妊娠・出産・育児を理由とする嫌がらせや不利益な取り扱いを行う「マタニティ・ハラスメント」、男性の育児参加を阻害する「パタニティ・ハラスメント」など、様々なハラスメントが起きています。

性的マイノリティ

私たちの「性」には、からだの性だけでなく心の性、好きになる性、見た目や言動で表す性など様々な要素があり、その組合せによって多様な性のありようが存在するとされています。このように「性」を広くとらえて人間の性にかかわる現象すべてを含むものとして「セクシュアリティ」という言葉が使われます。

性の多様性は、LGBTなどのマイノリティ（少数者）だけでなく、すべての人にかかわることから、最近では、誰もがもつ性的な属性を表す言葉として、性的指向（Sexual orientation 好きになる性）と性自認（Gender identity 心の性）の頭文字からつくられた「SOGI」（ソジまたはソギ）が使われるようになってきています。



誰もが大切にされる心豊かなまちづくりのためのアンケート調査
— 田尻町人権に関する意識調査 —
結果報告書 概要版

2022(令和4)年3月 大阪府田尻町(総務部企画人権課)
〒598-8588 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺375番地1
TEL(072)466-5019 FAX(072)466-8725
E-mail:kijin@town.tajiri.osaka.jp